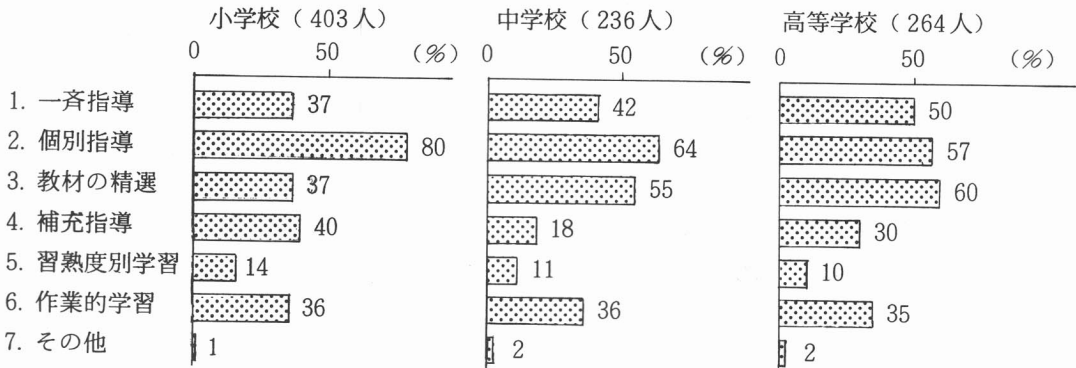


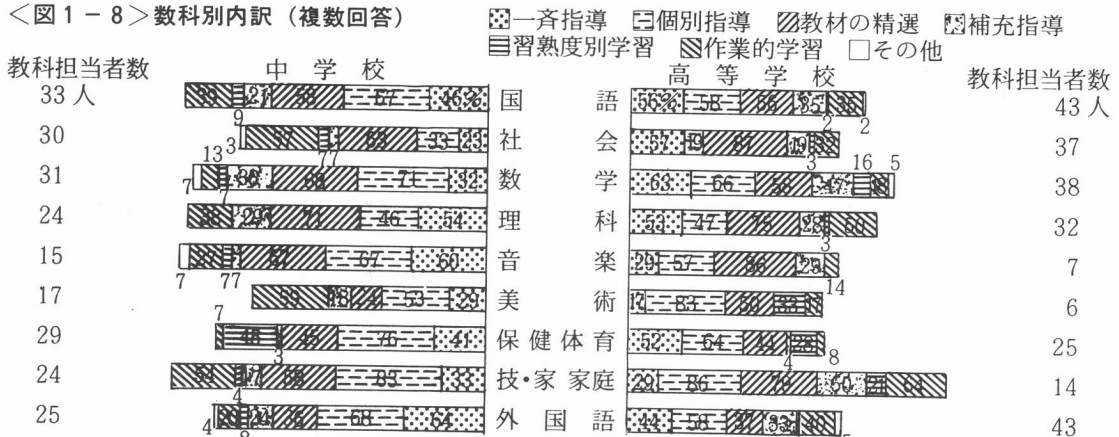
・結果と分析

<図1-7> 基礎的・基本的な内容の定着を図るための方法（複数回答）



- 小学校では個別指導が指導の中心として位置づけられている。中学校では個別指導，教材の精選が高い割合を示している。高等学校では教材の精選，個別指導，一斉指導が高い割合である。
- 個別指導の割合は小・中・高等学校の順に低くなり，逆に，一斉指導，教材の精選の割合が，小・中・高等学校の順に高くなる傾向がある。このことは，一斉指導が中心となりがちで，中・高等学校の現状を示すものであろう。
- 小・中・高等学校を通じて個別指導の割合が高い。このことは，基礎的・基本的な内容の定着に，個別指導が極めて重要であることを示していると考えられる。

<図1-8> 教科別内訳（複数回答）



- 一斉指導の割合が高いのは，中学校では外国語，音楽，高等学校では数学である。個別指導の割合が高いのは，中学校で技術・家庭，保健体育，高等学校では家庭，美術である。作業的学習の割合が高いのは，中学校で美術，社会，技術・家庭，高等学校では家庭が目立っている。
- 中・高等学校ともに，個別指導について割合が低いのが，社会と理科である。これらの教科は，教材の精選の割合も高いことが共通点として指摘できる。

(5) 情意面の評価

〔設問5〕 児童生徒の情意面（関心・態度など）の評価を行っていますか。